

2025年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書

東京都町田市忠生 2-7-5
幼保連携型認定こども園 町田自然幼稚園

活動のテーマ

身近な自然を科学する里山活動

<テーマの設定理由>

もっと知りたい生き物のこと、見つけてみたい植物のこと、生き物への興味・
関心を里山という環境を活かしながらさらに探究したいと思ったからです。

<環境の設定・準備>

トランシーバー キッズカメラ 顕微鏡 わくわくスコープ iPad
プロジェクター スクリーン

探究活動の実践

<活動の内容>

夏



里山近くの田んぼ。春に植えた稲が青々と育ち、それに伴いイナゴやショウジョウバツタもたくさん発見。稲も植えた頃は親指から小指くらいの長さでしたが、いまは肩くらいまで生長。自分の身体と比べて稲の生長を確認しました。



花にも興味。もっとよく見たい。見てみよう。顕微鏡を通して見てみると目で見ただけでは気づかない発見を言葉に表して、友だちと共有し、発見が広がっていきました。

秋



右ルートと左ルートに分かれて探索。それぞれどんなものを発見したのか共有。きのこ、赤く染まったもみじ、鳥のさえずりや風の音。「綺麗だね」「秋みつけ」と様々な出会いにわくわくしました。

冬



「図鑑で調べた木があるかな」
「里山の新しい道って他にどこがあるんだろう」
「染め物の材料、里山の植物も使いたいね」
「バードコールで鳥と会話できるかな」新しい道には新しい発見が盛沢山
。「この木の皮、きっと染め物で使える」
「木の幹に穴が空いてる！ なにか住んでいるのかな」
「見て、ハチの巣が下に落ちてきているよ」
竹を叩いてみると「竹の色が違くと音も違う…」
「このどんぐり、緑と赤なんだけど、なんでだろう」
「ここの土、緑色だ。持って帰って幼稚園の土と比べてみよう」



見たり聞いたり触ったり取ったり撮ったり…探究心が止まりません。

子どもたちの探究はまだまだ続きます。



「そもそも土って…？」里山から持ち帰った土を触ると「油粘土みたいな感じ？」「ふわふわしてる？」と土の特性を話し合う。「じゃあ幼稚園の土は…？」気になった子どもたちは早速、幼稚園のいろいろな場所の土も集めて調べていることに。「さらさらしてる！」「この土は泥団子を作るのに良いんだよ！」「固まるもんね」「この土は固まってゴロゴロしてるよ」それぞれ園の中でもフィールドによって違う土を言葉にして伝え合う。色や触感が場所によって違う。そんな気づきを話し合っていると、氷の土？土の氷？を発見。「なんか冷たい土があるね」「なんでだろう？」と疑問の声。そこから広がる疑問の種。



「凍らせたらかチガチになるの？」「燃やしたら溶けるんじゃない？」「乾燥させたらコケとかカビが生えるんじゃない？」「水に濡らしたらいいんじゃない？」土のこと、まだまだ知らないこと沢山。

1月の終わりに行った里山では、冬だからこそその里山。

「これはカワラタケだね」「これはホウの葉だ」

これまで調べてきた知識を友だちと共有。

生き物も植物も景色も、色々な変化を感じた里山でした。

<振り返りによって得た保育者の気づき>

知りたいこと、知っていること、感じたこと、やってみたいことをしっかり自分の言葉で伝えながら

探究を深めたこどもたち。

保育者としては、子どもたちの気づきやつぶやきを大切に受け止め、共感しながら探究が広がるよう環境や

関わりを工夫していくことの重要性を改めて感じた。今後も自然との関わりを通して、子どもたち一人ひとりの

「知りたい」「やってみたい」という意欲を大切にしながら、主体的な学びが深まる保育を大切にしていきたい。